

校

医



第500号 令和2年3月1日
発行所 京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601-1 こどもみらい館 2階
TEL (075) 256-0351
FAX (075) 241-3568
発行人 林 鐘 声

“わ”と“わ”を繋いできた「校医」

会 長 林 鐘 声

昭和53年6月25日に創刊した学校医会ニュース「校医」は、今月で500号を迎えました。会員の情報誌として年2回発行していた「学校医だより」とは別に、執行部の決定や学校医活動の内容についてより素早く情報発信する媒体が必要であるとの酒井昇理事の提案を受けて、高島雅行会長が月に一回の発行を決め、酒井理事、小笠原孟比古理事が編集委員となって始めました。その当時、京都府医師会の学校医部会設立構想の中で京都市学校医会の解散吸収が目論まれ、70年以上活動してきた学校医会の存続が危惧された状況下で、会員に学校医会執行部の対応方針を広報する必要があったと記されています。同じ6月には京都市教育委員会に間借りしていた事務局を閉じ、自前の事務局を開設し専任の事務員が駐在執務する現在の形を作り上げたのは、この問題に対する学校医会の態度表明であったと思います。

「校医」の命名と書は陶山彦彦副会長よるものです。学校医に対する熱い思いに溢れたご本人の創刊号の文章を引用します。『校の字には学校すなわち学ぶところという意味のほか、しらべる、誤りをただすという意味がある。校正の校である。したがって校医とは医をただす、医道をただすという意味に解釈できるのではあるまいか。また校には軍陣中の特設の「しきり」という意味から転じて、その中にいる軍を統率する者という意味がある。将校の校である。したがってその意味からいえば、校医とは医師の中の将たる医師、医師の中のエリートということになりはしないだろうか。京都市学校医会のニュース誌発刊に当たり、その題名を平凡ではあるが含蓄のある校医という字句に決定した次第である。なお

この書体は、漢魏時代の篆書から採用した。』

この冊子の正式名称は学校医会ニュースであり、校医ですが、校医ニュースも良く使われています。学校医会ニュースではあまりにも平凡、校医では重すぎるので折衷してそうなったものかと考えていますが、誰が最初に使いだしたものと調べたところ、創刊号の酒井先生のあとがきに答えがありました。「どのように長く、立派な鎖でも、一つの輪がこわれれば役に立たない、という諺があります。今、この輪を学校医に例えて考えてみますと、二つの意味にとれます。一つは70年と云う長い年月に亘って、それぞれの時代において、常に京都の児童・生徒の健康を守り、普段の努力で輝かしい足跡を刻まれた先輩諸先生の年輪としての輪、もう一つは、この営々として築かれた鎖を、更に充実発展させんとしてガッチリとスクラムを組んだ我々の輪です。どの輪がこわれたり、はずれたりしても十分な活動ができなくなることは明らかです。次代を担う青少年が、すこやかに育つために、何が一番大切か、それぞれの立場の大人が今こそ真剣に取り組む時だと思えます。そんな願いを込めて、月刊の校医ニュースが発刊の運びとなりました。」

昭和から平成を挟んで令和へと推移する中で、学術的研究や相談事業の報告は平成2年からは年刊の学校医会誌に発表の場が移るなど、少しずつその体裁は変わり「校医ニュース」はコンパクトにスリムとなっていきました。平成17年からはホームページでも閲覧できるようになっています。学校医会ニュース「校医」は私たち一人ひとりの輪と輪を繋ぎ、昭和と令和を繋ぎ、しっかりとした鎖をつくるのに大

きく貢献してきました。

最後は、おめでたい500号に敢えて伝える小さな話題です。創刊号から数えると500号の発行は2カ月遅れとなっています。一つの理由は、1～3号がその月の25日に発行されていたのに代わって、4号からの発行日が1日になったことに拠ります。即ち、3号は8月25日、4号は10月1日の発行となっており、昭和53年9月号は存在していません。もう一つは、昭和63年4月号がなぜか発行されていないことに

拠ります。これらの事情で2カ月のずれが生まれました。更に言うと、116号（昭和63年2月号）は発行されずに幻の116号となっているため、今回の冊子は、実際には499番目の冊子です。昭和63年の春に何があったのでしょうか。少なくとも116号の経緯は知りたいところですが、残念ながらそれを記した文書は残っていません。こんな不思議が隠れているのも、長く続いてきた証であるに違いありません。

『校医』 発刊500号に寄せて

京都市教育委員会 体育健康教育室長 福西清次

学校医会ニュース『校医』第500号の発刊、誠に
おめでとうございます。

京都市学校医会の先生方におかれましては、平素より子どもたちの健やかな成長を願い、永年にわたり京都市の学校保健の推進に多大の御貢献をいただいておりますことに、心より御礼申し上げます。

また、時宜に応じた子どもの健康課題に対する熱心な研究活動や研修会の実施等、日々学校医の資質向上に努められていることに、深く敬意を表する次第です。

先生方には、定期健康診断をはじめとした児童生徒の健康管理や保健指導はもとより、京都市教育委員会の委託事業として実施していただいている各種相談事業のほか、大文字駅伝や水泳記録会といった各種運動競技会の医務活動への従事等、様々な事業に御協力を賜っております。

学校医としての職務の遂行や学校保健の取組の推進にあたっては、教育委員会との日々の情報共有・連携はもとより、校園長会や養護教育研究会とも定期的に懇談会を実施されるなど、教職員との意見交換や協議を通して、学校保健の諸課題の解決に向けた取組の充実改善を図ることで、他都市では実現に苦慮するような案件も、学校現場との連携により乗り越え、常に全国をリードする活動を展開してこられました。

平成21年度からの4年間、貴会の御協力を得て実

施した中学1年生へのMR（麻しん・風しん）集団予防接種においては、取組前は全国平均以下だった接種率が、実施1年目で麻しん排除に必要な95%を上回り、平成25年度の厚生労働省の調査では政令指定都市中で1位となるなど、大きな成果をあげることができました。近年では、海外からの転入者を対象とした結核健康診断の実施、『肥満とやせの指導マニュアル』の改訂、四肢の状態の検査の実施状況調査とその結果を踏まえた整形外科医会様との連携等について御指導・御協力をいただき、取組のさらなる充実を実現することができました。

こうした実りある取組が行えますのも、先生方が子どもたちの健康を最優先に考え、心を一つにしてお取り組みいただいているおかげであると感謝いたしております。

さらに、平成5年度からは「健康管理医制度」により、学校医の先生方に健康管理医としての役割も担っていただき、教職員の健康相談等に御従事いただくとともに、産業医として、配置校への御指導・御助言等もいただいております。

現在、学校現場では、働き方改革に向けた取組の中で、教職員の健康管理の必要性がこれまで以上に叫ばれており、本市におきましても様々な取組を進めているところです。「教師は子どもにとって最大の教育環境である」と言われるように、教職員が心身ともに健康な状態で子どもたちに向き合うことが、

より充実した教育活動につながります。先生方には、子どもたちはもとより教職員の健康の維持・増進に向けた取組の推進につきましても、医学的見地からの御指導・御助言等、一層の御理解とお力添えをいただけますと大変ありがたく存じます。

また、目下のところ、新型コロナウイルス感染症の国内での感染拡大が危惧されておりますが、様々な感染症につきましても、教職員が確かな認識のもとで「正しく恐れる」とともに適切に対応できるよう、各校園において御指導・御助言をお願いいたしたく存じます。加えて、全市的な対応が必要となる非常時においては、貴会との密な連携が不可欠ですので、今後とも御協力をよろしくお願いいたします。

これまでから、制度の変更や新しい取組の導入等、様々な学校保健の課題とその対応については、その都度、この『校医』によりタイムリーに情報を発信していただくことで、速やかにそれぞれの学校医の先生方と共通理解を図ることができており、そのことが学校現場における円滑な取組の推進につながっていると考えております。

教育委員会といたしましても、今後も、貴会とのさらなる連携のもとで引き続き学校保健の取組の充実に努めるとともに、『校医』が学校医の先生方お一人お一人と教育委員会、学校現場とをつなぐ手段の一つとして、有効に活用されることを期待いたしております。

第34回 大文字駅伝 医務役員に参加して

大宅小学校医 本多 宏 明

山科で整形外科をしています、本多と申します。今回、校医をしております大宅小学校が大文字駅伝に出場することもあり、お手伝いに参加させていただきました。

今年は暖冬で、ほぼ雪は降らなかったのですが、この日は今年一番の冷え込みで北の山はすっかり雪をかぶっていました。

朝8時15分から、みやこめっせで顔合わせ、そして出発式の後、選手の小学生48名と役員8人が同じバスに乗って担当の植物園前の第4中継地点までおもむきました。10時前には中継地点に到着し、第4中継地点には11時ごろに中継が行われるスケジュールでした。待っている間は屋外で待機していると頭に雪が積もりそうな天候で、ぬかるんだ地面で滑って擦り傷などを作る生徒が出る事を懸念しました。同じ中継地点を担当する養護の先生がてきぱきと消毒や、洗浄の水などの準備をしていただき、けがをした生徒がいた場合に速やかな処置ができるように救護所を整えて、水分補給のための水や、万一のためのAEDもすぐ使えるように設置しました。

駅伝開始後は、雪も上がり、足元はぬかるみはあ

るものの、生徒さんたちはそれほど濡れることなく走っていただける状況でした。中継地点では役員の皆様の尽力で混乱もなく中継が行われ、怪我をしたり救護を要する生徒さんも出ませんでしたので医務担当としては駅伝の見学のみで仕事を終える事ができました。去年は倒れこんだ生徒がおられてタクシーで送り届けたとの話を伺いました。

救護所を簡単に片付け、走り終えた生徒さんたちとまたみやこめっせにバスで帰着ですが、現地解散しても構わないとのことでしたので、私は目の前の植物園の見学をしてから帰らせてもらいました。

今回、初参加でどのような場所での待機かは分かりませんでしたでしたが、中継地点のテントにはストーブは設置されているものの、ほぼ吹きさらしの屋外で2時間近く待機する事になりますので、また参加される先生方は、防寒準備を整えてのご参加をお勧めさせていただきます。

つたない文章ですが、大文字駅伝の医務役員の仕事の雰囲気や今後参加される先生のご参考になりましたら幸いです。

第10回 常任理事会

令和2年3月7日

於：事務局

出席者 林会長，井本・杉本副会長，山内専務理事，大久保・安野・川勝・西村・中嶋各常任理事，嶋元眼科学校医会幹事，鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事，奥村議長，東道・長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 第34回京都市小学校「大文字駅伝」大会
2/9 於：京都市勤業館みやこめっせ
2. 精神衛生研究会 2/13
3. 色覚相談 2/18 2名，2/25 2名，
3/3 1名(延期)
4. 腎臓相談 3/10 (延期)
5. 京都市中学校秋季総合体育大会
ラグビーフットボール種目 2/22
於：太陽が丘グラウンド 奥村
6. 第67回近畿医師会連合学校医研究協議会
2/23 於：和歌山県和歌山市(ホテルアバローム紀ノ國)(自粛)
7. 京都市中学校体育大会秋季総合体育大会ラグビーフットボール種目 2/29
於：宝ヶ池球技場 十倉先生(中止)
8. 東山支部会 3/1 林 参加者13名
9. その他
多くの会が中止になっている 急な案件があれば医会のHPに載せる

<協議事項>

1. 事務所光熱費について(会議開始前にみらい館の担当者より説明あり)→来年度より徴収4月に納付
2. 令和2年度京都市学校保健会役員選出について
今期の会長は学校医会が担当
3. 令和2年度三師会・懇談会日程について
コロナ感染症を鑑み開催は10月以降にする→各担当に通知
4. 会誌原稿について 担当者は締切までに
5. 結核対策委員の推薦について 大久保
6. 学校健診時の受診勧奨後に自院で診察する場合の基本診察料について 再診になる旨徹底
7. 新任校医研修会・全理事会・総会等開催の是非について
新任校医研修会は予定通り(内科5名) 全理事会は4/2開催 総会は中止 承認事項は書面で全員に周知
8. 新型コロナウイルス感染に関する諸問題
今は1人でも出れば学級閉鎖，2週間?!
9. 京都市学校医会研修会(7/4)について
開催予定
10. その他

<関連学会・各種協議>

1. 色覚相談(延期未定)
2. 腎臓相談(延期未定)
3. 精神衛生研究会 3/12
4. 京都市学校医会 新任校医研修会 3/19
於：こどもみらい館
5. 全理事会 4/2
6. 第11回常任理事会 4/4
7. その他

令和2年度京都市学校医会総会の中止

会長 林 鐘 声

京都市学校医会会則の第16条には「定期総会は毎年1回春季に開催する」とありますが，新型コロナウイルス感染症の拡大の中で，4月18日の開催は見送らざるを得なくなりました。現状では開催できる目途は不明であるため，不規則なことになりますが，新年度の活動に当たって，事業決算報告，新年度の予算案，役員改選などの案件については，紙面で会員皆様にお諮り致します。

4月2日の全理事会で内容を吟味した資料を，皆様に郵送することをご了承下さい。

事情が許せば，秋には臨時総会を予定します。